

リンゴシロヒメハマキ (別名 リンゴシロハマキ)

6月頃に広葉樹各種の葉を食べるイモムシ(幼虫)。体長最大12mm。枯れ葉で繭状の巣を作る。巣の長さは15mmほど。リンゴなどバラ科果樹では害虫とされることがある。



1. 終齢幼虫, 体長10mm. 1989/6/29.

美唄市, シラカンバ.



2. 幼虫の巣. 1989/6/29.

美唄市, シラカンバ.

【学名】 *Spilonota ocellana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), ハマキガ科 (Tortricidae), ヒメハマキガ亜科 (Olethreutinae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; 北半球.

【特徴】

幼虫は終齢で体長10~12mm。体は褐色で、頭部, 前胸背楯, 胸脚, 肛上板(尾端背面)は黒色。

【生態】

宿主: リンゴ, ナシ, ズミ, エゾヤマザクラ, ナナカマドなどバラ科樹木, シラカンバ。

北海道では年1回発生, 若齢幼虫で越冬という。道内の低地では終齢幼虫が6月下旬に採れ, 飼育したところ7月中旬に成虫が羽化した。幼虫は新条先端付近の若い葉を束ねて巣を作る。特に新芽を好んで食べるという。終齢幼虫の巣は枯れた葉で作られており, 長さ15mmくらいの卵形。

【被害と防除】

果樹園のリンゴやナシでは害虫とされるが, 他の樹木では発生量はごく少ないため, 防除は必要ない。

【文献】

1957. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑(上): I-XIX, 1-318, pls 1-64. 保育社, 大阪.

1969. 一色周知, 編集. 原色日本蛾類幼虫図鑑(下): I-VI, 1-237, pls 1-68. 保育社, 大阪.

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑: I-VIII, 1-365, pls 1-64.保育社, 大阪.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol.1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392.講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

リンゴシロヒメハマキ himehama/ringosi/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991/4/12.

1yochu.JPG, 1yochusu.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1989.

「写真個体の種の同定」 那須義次博士, 大阪府病害虫防除所, 1993頃.